

# 2018年度 事業報告書

1) 外国語電話相談	1
2) HIV 陽性者等のための多言語での個別支援	2
3) グループプログラム	6
4) 多言語支援	9
5) 調査研究	12
6) 研修及び受け入れ	13
7) ネットワーキング	15
8) 広報	17
9) 理事会	17
10) 会員総会	19
11) 事務局	19
12) 会員	19
13) 寄付者一覧（敬称略）	20

特定非営利活動法人 **CHARM**

(Center for Health And Rights of Migrants)





## すべての人が健康に過ごせる社会をめざして ～CHARM は榎本てる子を継ぐ～

2018年4月25日、私たちの大切な友人でありCHARM設立メンバーの一人である榎本てる子が亡くなって1年が経ちました。

友人の一人は彼女について次のように書き記しています。

「てる子は、西に困った人がいれば一緒に考え、東に迷っている人がいれば背中を押し、南に弱っている人がいれば寄り添い、北に疎外された人がいれば一緒にご飯を食べる」

そこにはいつも笑いが溢れており、国籍・性別・セクシャルティィー・宗教にかかわらず、出会った人にとって彼女はかけがえのない友人になりました。

1人の人と心から向かうことの積み重ねが、「すべてのひとが健康に過ごせる社会」を創ると確信します。

CHARM 理事長 松浦基夫

2018 年度 CHARM 事業報告書

1) 外国語電話相談

外国語によるエイズ電話相談

日本語以外の人たちが HIV について相談をしたり、英語などで検査や診療が受けられる医療機関の情報を得たりする場として多言語電話相談を毎週実施している。この事業は、大阪府、大阪市からの委託として CHARM が行っており今年で 17 年目を迎える。

言語については、2002 年からポルトガル語、スペイン語、タイ語、フィリピン語、英語の 5 言語の相談を提供してきた。2018 年度は 187 件の相談を受けた。言語別相談数は、ポルトガル語が 42 件(昨年度より+7 件)、スペイン語が 10 件(-14)、英語が 80 件(+14)、タイ語が 13 件(-4)、フィリピン語が 11 件(+11)だった。これ以外に日本語による相談が 3 件(-26)、そして医療機関からの問い合わせが 11 件(-2)あった。

相談内容としては、HIV 陽性者の不安、心理的問題(45 件)が最も多く、その次は外国語の通じる抗体検査会場紹介(42 件)、医療機関紹介(42 件)、HIV に関する情報(38 件)、PWH A その他(36 件)、外国語の通じる医療機関の紹介(27 件)、PWH A 社会福祉制度、医療費、薬価(25 件)、NGO/NPO 紹介(24 件)、行政手続きの方法(22 件)、性感染症、婦人科系の問題(16 件)等の相談があった。相談内容で多かったのは、HIV 陽性者で現在治療をしている、または治療を開始しようとしている人からの相談であったが、昨年度よりも大きく増えたのは外国語の通じる抗体検査会場の紹介であった。多くは京都市 HIV 夜間検査の予約の受付であり、夜間検査が隔週から毎週実際されるようになって 2 年目となったため、外国籍住民にも知られるようになり、受検希望者が増加したと考えられる。

2018 年度 相談内容(複数回答あり)

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
		月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	
相談内容	外国語の通じる抗体検査会場紹介	1	3	13	0	0	1	4	4	2	2	1	11	42
	外国語の通じる医療機関の紹介	1	1	1	0	1	4	2	2	1	1	6	7	27
	行政手続きの方法	3	0	3	2	2	0	2	1	1	2	3	3	22
	性感染症、婦人科系の問題	1	0	1	0	2	1	1	4	1	0	4	1	16
	HIV に関する情報	1	1	2	2	5	1	2	2	4	1	6	11	38
	PWH A 症状、薬の副作用	0	0	2	3	2	0	1	0	0	2	0	2	12
	PWH A 社会福祉制度、医療費、薬価	0	1	4	3	1	0	1	6	4	1	3	1	25
	PWH A 不安、心理的問題	2	5	4	4	8	5	0	4	3	4	2	4	45

相談内容	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	計
海外の HIV 診療事情、受入れ 機関紹介		0	1	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	5
PWHA その他		1	6	3	1	4	6	3	1	1	5	1	4	36
医療機関紹介		4	2	2	2	4	3	3	6	3	1	8	4	<b>42</b>
NGO/NPO 紹介		0	0	0	1	3	1	1	3	2	0	7	6	24
HIV を含む性感染症への不安		0	1	0	1	2	0	0	1	0	0	3	3	11
その他		3	3	2	2	0	0	1	1	0	0	1	0	13
<b>合計</b>		17	24	37	22	34	23	22	36	22	19	45	57	358

(大阪府・大阪市委託：外国人エイズ電話相談事業)

## 2) HIV 陽性者等のための多言語での個別支援

CHARM では陽性者個人のニーズに個別に対応する個別支援を行っている。支援の形態は、CHARM 事務所における対面相談、家庭訪問や同行支援、拘留中の支援、HIV 医療情報などの提供、そしてエイズ専門相談である。

### 2-1) 多言語対面相談

CHARM では、相談室での対面相談を実施している。外国籍の人の場合は、日本で HIV 診療を受ける方法に関する相談が 3 人延 5 件、また生活に困窮するなどの理由で公的支援を必要とする人が問題解決の方法を見出すために相談をするケースが 3 人で 13 件、そして HIV を持ちながら生きている人が不定期に相談に訪れるケースが 25 件あり合計で 43 件の対面相談を行なった。

### 2-2) 自立して行動することが難しい陽性者の手助け「すけだち」

自立して行動することが難しい陽性者の手助け「すけだち」。2017 年度まで「お助けシスターズ」の名称で活動していた陽性者支援を「すけだち」という名称に変えて活動した。

今年度は、自立して行動することが難しい陽性者を高齢者に限定して支援を行ったため対象者は少なかった。訪問件数は述べ 12 件で、支援内容は話し相手であった。

2017 年度の厚労科研「高齢 HIV 陽性者のコミュニティーへの受け入れ」の中で行った拠点病院の MSW へのフォーカスグループディスカッションによって明らかになった陽性者の支援ニーズとして、エイズ拠点病院への受診同行支援がある。そのため大阪医療センターと大阪市立総合医療センターの HIV 陽性者を担当する MSW へ「すけだち」として受診同行ボランティアを派遣する旨の広報を行った。受診同行支援の問い合わせは 1 件のみであったが実際にボランティア派遣には至らなかった。

自立して行動することが難しい陽性者は高齢者に限らず存在しているため、対象者の枠を見直すことが次年度の課題である。

すけだちのボランティア研修：2018 年度は 3 回の研修会を行った。

#### ・第 1 回研修 テーマ 介護保険制度について

研修内容：介護保険の概略、被保険者の資格要件、サービスの仕組み。申請の手続きと認定までのプロセス、事業別のサービスの内容と限界、事業者の役割など。

講師：梅田政宏 株) にじいる家族 居宅支援事業所 介護支援専門員

日時：2018年6月3日(日) 参加者9名

すけだちメンバーによる振り返り：知識を得たことで対象者が受けているサービス内容が理解できた。また、今後対象者が介護保険を利用する際に情報提供ができると思われる。今後は HIV 陽性者の在宅療養をサポートしている介護保険事業所や障害福祉事業所との連携を深めていきたい。

・第2回研修 テーマ ケアをリフレクションしてみよう。

研修内容：① 対人援助の特徴(病を抱える人と関わること)② 対人援助における自己への気づき(自己一致) ③ リフレクションとは、Gibb's のリフレクションサイクルをモデルに(目的・内容・効果) ④ 演習(場面の描写、評価、感情の分析、行動の分析、考察・統合、行動計画)

講師：荒木宏美 医療法人愛仁会看護助産専門学校 専任教員

日時：2018年10月8日(月祝) 参加者：6名

すけだちメンバーによる振り返り：実施記録は、個別につけるのみでチームで振り返ることが少ないが、リフレクションツールを使って省察することにより援助の方法や自身のケアの傾向について客観的に振り返る機会となることを学んだ。

・第3回研修 テーマ MSM(男性と性交渉を持つ男性)と予防の今

研修内容：予防戦略の傾向として、U=U (検出限界値以下が続いていれば感染させない) PrEP(感染曝露前予防) PEP(曝露後予防)などの戦略が出ている。治療の傾向として月1薬剤投与などがある。一方で若年者のいきなりエイズの報告もあった。知識のない人が SNS を通じて安易に性交渉につながっている傾向が MSM の間で確認されている。

講師：塩野徳史 MASH 大阪代表 大阪青山大学健康科学部 講師

日時：12月8日(土) 参加者7名

すけだちメンバーによる振り返り：予防や治療の新しいトレンドが病気のイメージを変えていく力になれば良いという感想があった。一方で LGBT に対する正しい理解と人権教育が思春期前に必要だという意見があった。

### 2-3) 拘留中の支援

2018年度は刑務所拘留者1名、入国管理局収容所拘留者1名計2名の支援を行った。刑務所拘留者は、在日領事館からの依頼で HIV に関して相談を受けることになった。刑務所では家族以外の人との接見は許されていないため、直接面会する領事館員への情報提供や本人への手紙による精神的支援を行った。医療情報の提供によって不安が軽減することを目的とした。HIV 陽性者は拘留中適切な抗ウイルス剤を処方されており、定期的検査も受けている一方で言葉がわからないことにより引き起こされている精神的ストレスに対する理解は低く、文通はその不安を軽減する一つの方法である。誰かにつながっているということが希望となる。入国管理局収容所は、日本に滞在している家族への支援を行った。いずれも法の枠内で行えることは限界はあるが、犯罪を犯した人であっても健康を守られることは人間として必要なことであり CHARM は、国籍に関係なく拘留者の支援を続けていく。

### 2-4) HIV 医療情報などの提供

外国語の電話相談の他にホームページにて多言語のお問い合わせフォームを2018年1月から導入したことにより、海外及び日本国内で生活している外国人からの連絡を受けるようになった。2018年度は29件の個別相談の

連絡があった。その他にメールや電話による相談が5件あり、合計でインターネット上の個別支援や相談に34件対応した。

個別支援や相談の内容の多くは日本国内での HIV 医療にかかる際の続きの手順だった(22件)。その他は検査情報(5件)、自立支援／行政手続き(4件)、海外での HIV 医療にかかる手続き(1件)、感染不安(1件)があった。

CHARM のホームページにアクセスして相談することにより、来日前に治療を継続するために必要な書類の準備や生活圏にある医療機関の情報などを入手し、来日後治療が途切れることなく、安心して継続することを保証する一助となっている。今後もホームページの内容の充実と外国籍の人たちへの広報、そして地域の医療機関へのスムーズな連携が課題である。

	国籍	対応した内容(複数可)	紹介先(あれば)	アクセス
1	フィリピン	検査	情報提供	HP
2	ブラジル	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	情報提供	HP
3	不明	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	情報提供	HP
4	ブラジル	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	情報提供	HP
5	不明	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	大阪医療センター	HP
6	不明	検査	情報提供	HP
7	フィリピン	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	情報提供	HP
8	フィリピン	自立支援／行政手続き	継続相談	HP
9	ブラジル	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	情報提供	HP
10	アメリカ	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	情報提供	HP
11	不明	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	情報提供	HP
12	ブラジル	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	医療機関	HP
13	台湾	自立支援／行政手続き	大阪医療センター	HP
14	不明	検査	情報提供	HP
15	アメリカ	検査	情報提供	HP
16	台湾	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	情報提供	HP
17	不明	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	医療機関	HP
18	不明	感染不安	傾聴	HP
19	不明	検査	情報提供	HP
20	ブラジル	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	医療機関	HP
21	ブラジル	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	医療機関	HP
22	不明	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	医療機関	HP
23	ブラジル	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	情報提供	HP
24	不明	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	情報提供	HP
25	ブラジル	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	情報提供	HP
26	アメリカ	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	情報提供	HP
27	不明	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	情報提供	HP
28	台湾	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	情報提供	HP

29	ラオス	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順、 自立支援／行政手続き	情報提供	HP
30	日本	海外で HIV 医療にかかる手続きの手順	Yayasan Indonesia	メール、 電話
31	アメリカ	選択肢の整理	情報提供	メール
32	台湾	日本で HIV 医療にかかる手続きの手順	情報提供	メール
33	アメリカ	自立支援／行政手続き	大阪医療センター	メール
34	ブラジル	通訳派遣の調整	伊勢赤十字病院医師 から	電話

## 2-5) エイズ専門相談支援事業

大阪市保健所からの委託を受けて実施しているエイズ専門相談は、大阪市内で HIV 検査を行っている 3 保健福祉センターでの HIV 検査結果が陽性であった際の告知時カウンセリングと 2 保健福祉センターでの定例相談への派遣が中心となっている。3 保健センターでの陽性告知は、北区保健福祉センターが 11 件、中央区保健福祉センターが 2 件、淀川区保健福祉センターが 2 件、イベント検査である dista でちえっくんが 1 件の合計 16 件であった。告知がなかった月は 6 月、8 月、1 月であった。定例相談は、北区保健福祉センターで水曜日午後の検査時に月 2 回、年間合計 23 回実施した。中央区保健福祉センターでは、木曜日午前に 1 回と金曜日午後の即日検査時に 1 回、年間合計 21 回実施した。

相談内容は、HIV の症状、感染の可能性など基礎知識に関するもの、HIV 陽性者の相談で社会保障制度に関する相談、HIV 感染に関する不安で感染経路やリスクの検証と事実の整理などであった。この他に大阪市立総合医療センターで受診している患者へのカウンセリング派遣は述べ 14 件であった。

### エイズ専門相談員派遣先及び回数

	定例相談		病院	告知				合計
	中央	北		中央	北	淀川	dista	
4月	2	2	2		1			7
5月	1	2	1		2			6
6月	2	2	2					6
7月	2	2	1		2			7
8月	1	2	1					4
9月	2	2	1		2		1	8
10月	2	2	1			1		6
11月	2	2	1		1	1		7
12月	2	2	1		3			8
1月	2	1	1					4
2月	2	2	1	1				6
3月	1	2	1	1				5
合計	21	23	14	2	11	2	1	74

(大阪市委託：エイズ専門相談業務)

### 3) グループプログラム

#### 3-1) HIV 陽性と分かって間もない人のためのグループミーティング「ひよっこクラブ」

「ひよっこクラブ」とは、HIV ポジティブとわかって間もない人のための少人数制、半日間のグループプログラム。ポジティブ(陽性)と判明して、不安、焦り、体調不良をおぼえ、この先どのように暮らしていけば良いのか、孤独や絶望感に苛まれる人たちがいる。そのような人たちがピアやメディカル、対人援助スタッフとともに、互いの思いを吐露し、聴き合い、情報を得ることで、安心してこれからの人生を過ごせる、新たなスタートラインに立つ手伝いをするのがこのプログラムの目的である。



参加条件は、感染を知っておおむね 1 年以内であることのみで、年齢・性別・性的嗜好・国籍・感染経路等の制限はない。多様な参加者がいることを前提とし安全で安心できる環境を整えるため、他者への気遣いや個人情報尊重などのグラドルールを設けている。また、オリエンテーション担当ボランティアが、事前の個別オリエンテーションで丁寧に参加希望者のニーズや集団への適正を確認している。参加者のプライバシーを守るため、本名を名乗る必要はなく、事前連絡およびひよっこクラブ当日もニックネームで良い。

2009 年から始まった「ひよっこクラブ」は 2015 年度までは全 3 回(3 日間)シリーズで年間 3 回のプログラムだった。しかし、2016 年度からコース内容の質を落とさずに半日間でできるよう調整し、年間 3 回の開催数を 5 回に増やした。

また今年度(2018 年)より、運営メンバーとボランティアスタッフを統合し運営会議とした。当年度の目標である新たな人材としてピアスタッフ 1 名、メディカルスタッフ 1 名、オリエンテーションボランティア 2 名を迎え入れ、事務局も含め総勢 14 名のボランティアスタッフが、ひよっこクラブの運営にあっている。運営会議でより充実した協議ができるよう、議長を立て、会議成立人数を過半数とし、それぞれ多忙の中でも、一度も会議が不成立となることはなかった。

一方、半日コースへの変更などの努力にも関わらず、一昨年度ぐらいから参加の問い合わせ、参加人数が徐々に減少、残念ながら欠番となる回もあった。今年度も初回の 5 月は問い合わせ、参加者ともに 0 となり欠番、続いて 7 月 9 月は急な病欠があったものの、それぞれ成立人数の 2 名以上にとどかなかった。しかし、ひよっこクラブに参加したいという個々の思いを運営側の都合で中止にするにはしのびなく、当人の承諾を得てひとり開催とした。一方、後半 2 回は定員 6 人いっぱいとなり、良いグループワークを開催することができた。

「ひよっこクラブ」のプログラム内容は 3 部構成になっている。第 1 部は「みんなどうしてんねんやろ?」と題し、参加者とスタッフが安心して話ができて、聞きたいことや話したいことを共有できる場を作る。第 2 部は「お医者さんと話そうか」と題して医師が参加し、HIV 陽性とわかって間もない時期に必要な医療情報を学び、他の参加者の疑問を聞いた後、診察室以外で医師と話す体験をする中で、医療とのかかわりについて考えながら正確な情報を得る。第 3 部は「ほな、ぼちぼちいこか」と題し、ここまでに出た話題を深め、もっと話したかったことについて話し合う。そして参加者それぞれが、これからの生活について前向きなイメージを持てるようにする。

「ひよっこクラブ」は一度きりの参加を前提としており「次への一歩」もしくは「通過点」としての役割を果たす。継続的な援助の性質は持たないため、必要な場合に利用できるように地域に存在する社会資源の紹介を積極的に行っている。

しかしアンケートでは、また会いたい、もっとほかの情報も知る機会がほしいなどの要望もあり、今後の課題となる。

◆2018 年度実施内容

開催月	5月(欠番)	7月	9月	11月	2月
開催期数	31期	32期	33期	34期	35期
オリエンテーション	0	2	0	6	3
参加者	0	1	1	6	6
スタッフ(対人援助)	1	1	1	1	1
スタッフ(ピア)	1	1	1	1	1
スタッフ(医師)	1	1	1	1	1

◆構成スタッフ (ボランティア)

運営会議メンバー	13人
運営スタッフ (メディカル、ピア、対人援助)	10人 (うち新加入 メディカル 1、ピア 1)
オリエンテーションボランティア	2人
運営事務局	1人
各期振り返り・定例運営会議	4回 (7/26、9/12、11/9、2/26)
臨時運営会議	2回 (5/25、1/23)

ひよこクラブの広報は WEB サイトを中心に紙資材、Twitter などの SNS にて行った。紙資材は遠方からの参加の可能性も考え、近畿圏だけでなく西日本の拠点病院、関西の保健所などに年 3 回発送した。その他 HIV 感染者に知ってもらうとともに HIV 感染者以外にも周知をするため、プログラム詳細は記載せずに WEB サイトへ誘導することを目的とした名刺サイズのカードも作成した。

来年度はひよこクラブのホームページが CHARM のホームページに統合され、随時スタッフが更新できるようになる。また A4 版のポスターを作成し、病院などで常に掲示していただき、QR コードで簡単にホームページにたどり着けるよう工夫をする。

問い合わせや参加した人々のアンケート結果から「ひよこクラブ」の潜在的ニーズはあると確信している。必要としている人たちにいかに辿り着き、参加していただけるか、これからも広報、開催方法、対象、その後のケアなど運営スタッフで協議を重ねていきたいと思う。

(厚生労働省委託：HIV 陽性者等の HIV に関する相談・支援事業)

3-2) 女性交流会

HIV 女性陽性者が日常から解放されて仲間の女性たちとゆったりと時間を過ごす機会として女性交流会を開催して今年で 12 年目となった。今年は、全国から 12 名の女性陽性者(内 2 名は初めての参加)と 7 名の子どもが参加した。年代は、30 代 4 名、40 代 6 名、50 代 2 名で、居住地は、東北 1 名、関東 5 名、関西 5 名 中国 1 名で、国籍は日本 9 名、インドネシア 1 名、中国 1 名、タイ 1 名であった。

1 泊 2 日のプログラムの中でこれまで色々な専門性を持った医療従事者による情報提供や医療従事者への相談が重要なプログラムであったが、今年は初めてレクリエーション的プログラムが主なプログラムとなった。参加メンバーによる体操のセッションとアートワーク指導者によるコラージュ作りを主なプログラムとした。

これまで主なプログラムとしていた経験の共有や情報提供などは、プログラム以外の自由時間にメンバー同士がまた医療者を交えて積極的に行っていた。



今年度大阪で開催された第 32 回日本エイズ学会学術集会の一般口頭発表演題で初めて女性交流会のことを発表した。全国の医療従事者や支援者として HIV 陽性者が集まるこの集会で「女性 HIV 陽性者交流会を通してエンパワメント」と題した発表を行うことでその取り組みと成果を広く伝える機会となった。またこの報告は、同学会の機関紙に掲載される予定である。

(厚生労働省委託：HIV 陽性者等の HIV に関する相談・支援事業)

### 3-3) 薬物依存症からの回復を目指す HIV 陽性者のためのグループミーティング「SPICA」

SPICA は薬物依存症からの回復を目指す HIV 陽性者のピア・グループミーティングである。薬物依存症と言っても、薬物を使用することになった経緯は千差万別である。グループの参加者は、仲間とつながることで一人ではないことを確認し、お互いに励まし合いながら一日一日使用せずに生き続けることを続けている。一日薬物を使用しないで生きるためには、自分の気持ちを言える環境、支え合える仲間、そして自分の視点を広げることができる機会が必要である。SPICA では、毎月 2 回当事者が中心となったピア・ミーティングを開催し、仲間が自分の気持ちを出し、また他者の経験を聞く機会としている。

今年度は、平日夜に 1 回、日曜日午後に 1 回年間 23 回の集会を開催した。参加者数は、平日夜が平均 4.5 名で述べ 50 名、日曜日が平均 6.6 名で述べ 80 名、年間合計は 1 回ごとの参加者数の平均が 5.6 名で述べ 130 名が参加した。

ミーティングの中では、次のテーマを設けて話し合いのきっかけとし、参加者それぞれの気持ちや経験そして試している工夫に関して情報交換を行った。

- ・SPICA への参加の目的
- ・SPICA で実施したいと思うこと
- ・薬物を使わずに過ごしていくために何ができるか
- ・薬物を使わない生活をするようになり薬物の代わりをどのように見つけたか
- ・なぜ薬物を止めたいと思うのか
- ・薬物以外のストレス発散の方法
- ・薬物を使わないための個人の努力、目標
- ・薬物を使わなくなって気づいたこと

2018 年度は 3 回の学習会を開催した。異なる視点を得る機会として大変有効であった。次年度はより多くの学習会を開催する予定である。

- 1) 精神科との連携について 2018 年 10 月 14 日  
結のぞみ病院 医師 中元聡太郎さん
- 2) 依存症の私が薬物を使わないで生きることに至った経験 2019 年 1 月 13 日  
FREEDOM 理事 倉田めばさん
- 3) ピアとして仲間の苦悩にどこまで関われるのか 2019 年 3 月 10 日  
京都橘大学教員 仲倉高広さん

第 32 回日本エイズ学会学術集会において薬物依存症からの回復に関するシンポジウム「関西圏における HIV/AIDS・薬物依存のセーフティネットの現状～足りていないからこそできるケア～」で SPICA の活動について発表を行った。共に発表した京都バザールカフェの Salon, 臨床心理士主導の仲倉ミーティングと共に地域で薬物依存症の回復をする集まりの役割と課題について検討した。

(厚生労働省委託：HIV 陽性者等の HIV に関する相談・支援事業)

### 3-4) 月曜会

HIV 陽性者がフラッと立ち寄って仲間と話ができる場として月曜日の昼食会を行っている。本年度は、4月から6月にかけて月曜会の常駐スタッフがおり、毎週月曜日の昼から4時頃まで、3～4名が集まって情報交換をしたり、お互いの近況報告をしたり、またCHARMの事務作業を手伝うなどのボランティアを行った。今年度は常駐スタッフが体調不良により不在となりその後休会となった。継続的に役割を担うピアスタッフは、無理のない程度の関わりが必要でありケアも必要である。開催の頻度を検討し直して次年度に備えたい。

## 4) 多言語支援

### 4-1) HIVと結核の通訳派遣事業

2018年度の通訳派遣件数は219件となり、2017年度よりも79件と1.6倍近く増えた(2017年度は140件)。その内151件はHIV診療及び検査時の通訳派遣であった(2017年度は81件)。結核通訳派遣は68件だった(2017年度は58件)。

HIV診療時の通訳派遣は昨年度から続いている堺市立総合医療センターの中国語(7件)、奈良県立医科大学附属病院の英語(8件)、大阪医療センターのタイ語(6件)の患者への対応のほか、大阪医療センターへの新規派遣としては英語(複数患者13件)、タガログ語(複数患者15件)、ベトナム語(1患者、5件)の通訳を派遣した。言語としてはベトナム語、タガログ語、ネパール語の対応が今後も増加すると見込まれる。

その他は京都市下京区役所でのHIV検査の英語通訳を66件派遣した(2017年度28件)。京都市HIV夜間検査の実施が隔週木曜日から毎週木曜日に変わって2年目、外国語(英語)通訳派遣ができることを知られてきたことで、通訳派遣サービスを希望する利用者が増えたと考えられる。またコミュニティーセンターdistaでのゲイ・バイセクシュアル向けのHIV検査への英語、中国語通訳の派遣依頼を受け、検査14件、結果返し6件の合計20件を派遣した。

#### 2018年度 HIV関連の通訳派遣実績(件数)

		英語	中国語	タイ語	ベトナム語	タガログ語	ネパール語	フランス語	ポルトガル語
HIV 診療	大阪医療センター	13		6	5	15			1
	大阪市立総合医療センター	2				1		2	
	堺市立総合医療センター		7						
	近畿中央呼吸器センター					1			
	奈良県立医科大学附属病院	8							
	伊勢赤十字病院								1
	兵庫県立尼崎総合医療センター						2		
行政機関同行	淀川区役所		1						
HIV 検査	京都市下京区役所	66							
	dista キャンペーン検査	11	8	1					
	HIV関連 各言語小計	100	16	7	5	17	2	2	2

(合計 151件)

結核通訳では、従来の大阪府、大阪市、堺市、京都市の他、大阪府の八尾市、枚方市が中核市になったことで、CHARMと通訳派遣委託契約を締結した。2018年度の結核通訳派遣は昨年度より10件増えた。大阪府

からの依頼が昨年度より減ったが、大阪市からの依頼が増えた。言語では、ベトナム語が 22 件の依頼があって、最も多かったが、昨年度より 5 件減った。英語が 13 件、タガログ語が 12 件、インドネシアが 6 件と昨年度より増加した。その他、中国語は 12 件と横ばい、ネパール語 2 件、韓国語 1 件の派遣をした。

2018 年度結核通訳派遣実績(件数)

			英語	中国語	韓国語	ベトナム語	タガログ語	ネパール語	インドネシア語	
結核 診療	大阪市	城東区保健福祉センター				1			3	
		福島区保健福祉センター					3			
		東淀川区保健福祉センター	1						1	
		西淀川区保健福祉センター							1	
		西成区保健福祉センター				1				
		西成区保健福祉センター分館				1				
		中央区保険福祉センター								1
		北区保健福祉センター		1						
		住吉区保健福祉センター		1						
		生野区保健福祉センター					1			
		浪速区役所								1
		西区役所					1			
		大阪市立十三市民病院	2	3		4	4			
		近畿中央呼吸器センター		3		2				
		大阪市立総合医療センター						1		
		大阪府結核予防会相談診療所								1
		阪奈病院	1							
		日本語学校	3			4				
		患者自宅、職場等	2		1	1				
		大阪府	守口市保健所						1	
	近畿中央呼吸器センター					3	2			
	刀根山病院			2						
	大阪医療センター					1	1			
	大阪市立十三市民病院			1						
	河崎病院					1				
	日本語学校		1							
	患者社宅					1				
	堺市	近畿中央呼吸器センター		1						
		和泉市立総合医療センター	1							
	京都市	京都市立病院	1							
患者自宅		1								
		結核関連 各言語小計	13	12	1	22	12	2	6	

(合計 68 件)

また 2017 年度に大阪府から外国人向けの結核啓発資料作成の依頼を受け、結核通訳に従事している外国籍スタッフが資料内容を検討する会議から参加し、外国籍住民の目線で結核啓発資料(英語とタイ語)を作成した。2018 年度は対応言語の拡大の依頼を受け、中国語(繁体字、簡体字)、ベトナム語、タガログ語、ネパール語の 5 つの言語版を作成した。

さらに、近年、梅毒感染が増加していることを受け、大阪府から外国人向けの梅毒啓発資料作成の依頼を受けた。結核啓発資料同様、外国籍通訳スタッフが内容の検討会議から参加し、今年度はベトナム語、タイ語の 2 言語の資料を作成した。

このように行政機関と一緒に啓発資料の内容を検討する段階から関われることによって、外国籍住民目線、外国籍住民にやさしい、ためになる資料を作ることができ、今後もこのような取り組みを推進しつつ、行政からの依頼を積極的に対応していきたいと考える。

(HIV 診察・同行通訳派遣事業：厚生労働省委託事業、結核通訳派遣事業：大阪府、大阪府、堺市、京都市委託事業)

#### 4-2) 就労につながる日本語教室

CHARM が支援をしている長期療養 HIV 陽性者は、他の陽性者と同じように健康は維持することができている。しかし社会への貢献の面では、日本語能力の限界により自分の能力を十分に発揮することができていない。彼・彼女たちの大半は工場労働や介護施設での調理補助などいわゆる単純労働の仕事に従事しており、何年積み重ねても評価や昇級につながる仕事に従事できず、自己肯定感を高く持てない。日本語能力の中で弊害となっているのが読み書きの能力であり、これは体系的に日本語を勉強する機会を持ってこなかった人たちの限界でもある。

CHARM では、外国人陽性者の強い要望に応じて今年度就労に向けた日本語教室を開催した。幸い関心を持った大学教員が日本語教育大学院生、卒業生などを募集して指導体制を築いたことにより、これまで CHARM の活動に関わることがなかった日本語教育関係者が支援の輪に加わった。毎回 3-4 名がほぼ毎週通ってきて文法や語彙の勉強を行った。教室は、日本語検定の 3 級(N3)を受験することをゴールとして始めた。受講生は 1 年の学びの後に、2 人が文部科学省主催の日本語教育プログラムに合格し、その後に 1 人は介護施設で直接支援の仕事に従事するようになった。介護現場では記録をつけること、利用者の名前を覚えることなど日本語が要求されるが、1 年間日本語を体系的に学んだことが大きな力となり、生き生きと自分の力を伸ばし、健康状態は更に良くなっている。



日本語教室の回数と参加者数

月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	3	2	5	4	3	3	4	3	2	2	1	32
人数	6	6	16	11	12	8	12	9	5	6	2	93

#### 4-3) コミュニティー健康相談会

医療にアクセスしにくい外国籍住民が自分の健康状態を知り、医療者に相談する機会を提供することを目的とした健康相談会を 9 月 9 日 15:00-17:00 にカトリック大阪大司教区本部事務所で実施した。

サウスイーストアジアコミュニティー協会と精華地域活動協議会が主催する在留外国人のための相談会で CHARM は健康相談を担当した(CHARM スタッフは医療従事者 4 名、通訳者 10 名が参加)。約 20 名の方が健康相談会に参加した。体重体組成計、血圧計、ストレスチェッカーを使って、また個別相談のコーナーも設けて、参加者と対話しながら、日頃の健康に対する不安や疑問に対応した。

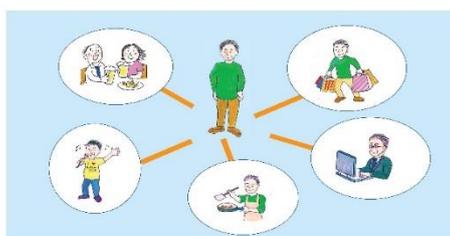


#### 4-4) 外国人母子保健事業

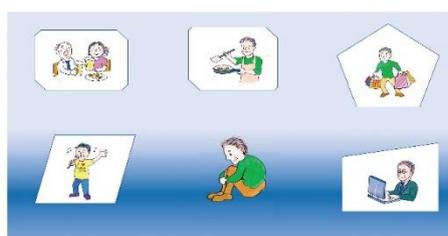
昨年度行なった調査活動の結果を行政機関や医療機関に還元すると共に大阪市内で外国人が多く出産している産婦人科のある医療機関に 4 言語による「日本で出産・子育てする外国人親のみなさんへ」を送付した。行政区の中には追加を希望する区が 1 件、大阪以外の行政区で希望する自治体が 2 件あった。また大阪市子ども青少年局へのパイロット事業提案を行なった。大阪市内で事業に協力できそうな区を限定して直接協力体制を組むことで試験的に外国人親支援事業を展開する道筋ができた。助成金申請は、申請できず次年度の実施となった。

#### 5) 調査研究

HIV 陽性者の地方コミュニティーでの受け入れに関する研究 分担研究者 武田丈



HIV を持っても社会生活は可能



今までできたことができない



住居の近くにクリニックと集まる場所

HIV 感染症は、薬でウイルスを抑制することによって日常生活をそれまでと変わりなくおくことができる病気になってから HIV 陽性者も高齢化の課題と直面することになった。当研究班では、高齢化などにより心身の力が低下した陽性者が自分らしく生き続けることが可能な生活環境を築くために必要な要素を明確にすることを目指している。エ

イズ拠点病院、地域の診療所や一般病院、高齢者施設、介護事業所、地域の陽性者支援団体がどのように連携していくのかを聞き取り調査等から明らかにすることを目指している。

研究班は、22名の研究協力者が参加しており、その背景は医療従事者、高齢者施設従事者、介護事業従事者、地域支援者、大学研究者と実に多様である。この研究班に参加している各職種がどのように協力してその中心に陽性者が居られるのかということが本研究の課題である。研究初年度の2018年度は課題の共有と方法論を検討することに終わったが研究が終わる2020年には各分野の間の連携のあり方を具体的に提示することを目指して進めていく。

(厚生労働研究補助金エイズ対策研究事業：「感染症およびその合併症の課題を克服する研究」研究代表者白阪琢磨)

## 6) 研修及び受け入れ

### 6-1) 医療通訳者研修

HIV／結核通訳研修の初心編及び実践編を各1回実施して、新しい医療通訳者の養成、そしてすでに登録している通訳者へのフォローアップを行った。2018年度に新規登録した通訳者は9名だった(英語5名、中国語3名、タイ語1名)。

#### <初心編>

日時 : 2018年7月7日 13:00-16:30

参加者 : 21名

参加者の使用言語 : 英語、中国語、タイ語、スペイン語、ベトナム語、インドネシア語、ネパール語、タガログ語。

内容 : HIV医療の実際。結核医療、検査、保健指導の実施について。

#### <実践編>

日時 : 2019年2月23日 13:00-16:45

参加者 : 15名

参加者の使用言語 : 英語、中国語、タイ語、スペイン語、ベトナム語、ネパール語、タガログ語。

内容 : HIV業務内容、通訳倫理、意見交換。日本の医療社会福祉制度について。

HIV／結核通訳派遣依頼の件数、言語が増えている中、通訳者の確保が大きな課題となっている。特に、ベトナム語とタガログ語(フィリピン語)の依頼が多くなっているが、スタッフの人数が少ないため、スタッフの確保が急務である。

(厚生労働省委託：HIV陽性者等のHIVに関する相談・支援事業)



### 6-2) 受け入れ

日時	主催機関・対象者・実施場所	実施内容	参加者数
5月30日	関西学院大学人間福祉学部 グローバル演習A (MASH 大阪 dista)	高齢 HIV 陽性者の生活と市民団体の役割 について CHARM 関係者が発題・意見交換	アメリカ アデルファイ大学 大学院生 11名、教員 2 名、関西学院大学教員 1 名、学生 3名、

6月11日	大阪市・シカゴ市社会事業従事者研修/交流プログラム	CHARM の行っている HIV 陽性者支援	ベンジャミン・ウォーカー(ハワードブラウンヘルスセンターソーシャルワーカー)と付添い3名
7月4日	花園大学臨床心理学科	卒論のインタビュー HIV 陽性者と差別	1名
10月10日	大阪医療センター HIV 感染症医師、看護師研修	施設見学と講義 日本に暮らす外国人の状況と CHARM の陽性者支援	医師 2名 看護師 1名
10月19日	関西学院大学神学部	陽性者の支援	田代麻里江
5月24日～ 7月	同志社大学社会問題実習	外国人の健康支援	松下愛
8月28日～ 19年1月	大阪大学大学院 未来共生イノベーター博士課程プログラム	2018年10月より2019年1月まで	木原琴

### 6-3) 講演実施

日時	主催機関・対象者・実施場所	実施内容	参加者数
6月22日	大阪府立松原高校「産業社会と人間」社会体験活動「国際理解」1年生	・国際理解を目的とした活動を知る ・より良い地域社会のあり方について考える ・自分と多文化共生の関わりについて考える	学生 21名 教員 1名
7月20日	平成30年度北陸ブロック HIV/AIDS カウンセリング・ソーシャルワーク連絡会研修会	陽性者地域支援について	北陸3県のエイズ拠点病院医療従事者及び地域支援 NGO 32名
7月21日	大阪国際交流センター・地域の国際人材養成講座	外国人支援の現場	一般市民
7月27日	AIDS 予防財団	市民団体による陽性者地域支援	保健福祉センター保健師、NGO 職員他
10月9日	京都ワイズメンズクラブ 10月例会	感染症の基礎と CHARM のこれから	28名
10月12日	2018年人身取引対策に関する日・タイ合同ワークショップ	CHARM が行っている在日外国人支援について	タイ研修生 12名
11月7日	日本キリスト教保育所同盟 2018年度中堅保育士研修会	感染症の基礎と保育現場における HIV	保育師他 50名 講師 3名
12月10日	三重 HIV 感染症研究会	女性陽性者とネットワーク	三重県内エイズ拠点病院医療従事者他
1月16日	伊勢赤十字病院	CHARM の地域支援活動	近隣の介護事業所職員
2月1日	三重県立総合医療センター	CHARM の地域支援活動	近隣の介護事業所職員
2月26日	全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研究所	「外国人が安心して医療を受けるための環境整備」地域における外国人支援のあり方	自治体職員、NGO 職員

## 7) ネットワーキング

### 7-1) 北区保健福祉センターとの共同

北区保健福祉センターがエイズデー(12/1)近辺

大阪市北区保健福祉センターが行うエイズデー啓発企画に協力を依頼され協議を行った結果、世界のエイズポスター展示を行うことが決まり、CHARM が世界各国の市民団体等に呼びかけてポスターを集め、北区保健福祉センターが印刷し、北区総合庁舎入り口ロビーにほぼ1週間展示した。

CHARM 及び人権団体ヒューライツ大阪のネットワークを通して各国の HIV 支援団体の協力により、12 カ国から計 50 枚 HIV ポスターが集まった。ポスターの内容は、それぞれの国の文化性が反映されている。多様性が尊重されているデンマークやフィンランドなどの北欧の国では移民などその国の言語が母語ではない人が見ることを前提にポスターが作られており、文字より絵やピクトグラムなどでメッセージを伝えようとする工夫がなされていた。またルーマニアやオーストリアではデザイン性の高いポスターがあり、家の壁に貼っておきたいようなカラフルなポスターも多かった。どの



国も対象者が明確でその人たちに届くはっきりとしたメッセージが書かれているのが印象的であった。隣の韓国でも HIV をテーマとしたミュージカルを作るなど若者に対してメッセージを伝える取り組みがなされていた。日本の広報媒体に生かすことができるヒントがたくさん詰まっている。ポスターをスライドにしてより広く見てもらえるプログラムにしていきたい。

### 7-2) 関西周辺の団体との協働関係づくり

#### ● MASH 大阪

NOT ALONE CAFE OSAKA。2018 年 11 月 3 日 15:00-17:00。参加者 33 名。

東京で開催されているゲイ・バイセクシュアル男性向けのイベント「NOT ALONE CAFE」の大阪初開催のイベントに STI の勉強会の部分を CHARM が担当し、一部では「外国人が使うことができる日本の保健制度、医療制度のサービスについて」、二部では「セックスと病気のはなし」を紹介した。またイベントの開催を多言語での情報拡散の協力も行い、外国人の方が数名参加した。外国



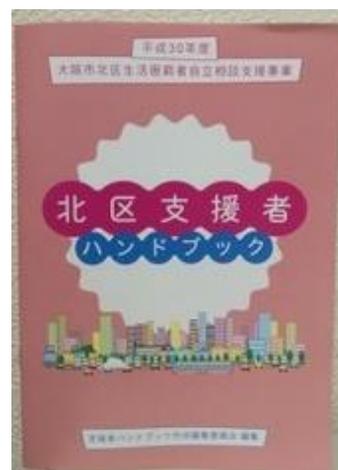
人に対してやさしいコミュニティーセンター「dista」を知ってもらうことで、日本に来たばかりの外国人が孤立せず、また日本で外国人が利用できる保健や医療制度を正しく知ることでより安心安全な日本での生活が送られるような取り組みだった。

#### ● 北区の団体との連携

CHARM は大阪市北区に事務所を置いて 15 年になる。これまでの活動内容が HIV 陽性者支援に特化してきたことからエイズ拠点病院や保健福祉センターとのつながりはあった。しかし地域の団体とは、すぐ近くの大淀寮(2019 年 3 月閉鎖)と男性の一時保護で協力関係にあったぐらいで、ほかに継続的につながるということにはなかった。

数年前に社会福祉協議会に就職した元 CHARM スタッフから社会福祉協議会が地域活動に積極的に取り組んでいるということを知り、驚いたことを覚えている。

その後北区社会福祉協議会のスタッフが CHARM を訪れ、北区で活動する色々な団体が集まる会合に誘われ、CHARM は北区の一つのリソースとして支援者ハンドブックにも掲載されて地域の団体とつながり始めた。北区で支援活動を行っている団体には、LGBTと女性のためのリソースセンターQWARCや薬物依存症からの回復を支援する大阪 DARC、の他子ども食堂を運営する教会、就労支援事業を展開している団体、無料低額診療事業を実施している医療機関などが含まれている。多様な背景を持つ人が多く暮らす北区の中で様々な人々の現状に応じた支援を行っている団体が近くにあることを生かしてこれから CHARM もその支援内容を明確化し、連携して安心して暮らすことができる環境を築いていくことを目指していきたい。



CHARM が担う「保健医療」サービスが地域の他団体に寄せられた相談から紹介を受けて対応していくことができるためにはその内容がより具体化し、問題の解決につながるシステムを構築する必要がある。

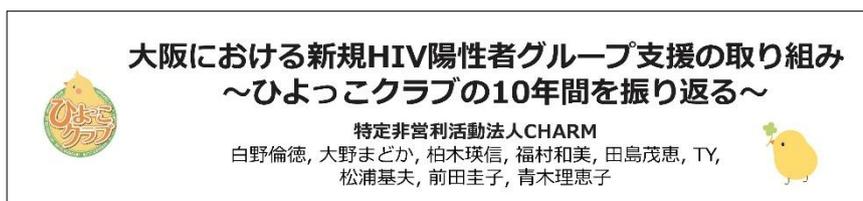
### 7-3) 第 32 回日本エイズ学会学術集会への参加

日本エイズ学会学術集会は毎年世界エイズデーの頃に各地で開催されており、CHARM は団体紹介のブース出展や発表などで毎年参加してきている。今年の開催(12月2日～4日)は地元大阪で会長は大阪医療センターの白阪琢磨さんであった。学会は中之島の国際会議場で行われ、CHARM は団体紹介コーナーで支援内容を掲載したパンフレットを展示した他シンポジウム、一般発表、ポスター発表で参加した。

シンポジウムは、薬物依存症からの回復に関するシンポジウム「関西圏における HIV/AIDS・薬物依存のセーフティネットの現状～足りていないからこそできるケア～」において SPICA でのグループミーティングが果たしている役割について発表を行った。SPICA は当事者が司会進行やメンバーへのケアを担うピア・ミーティングの特徴を持つグループでありピアであるがゆえの利点と難しさを発表した。

一般口頭発表演題において CHARM が行っている女性交流会の内容について「女性 HIV 陽性者交流会を通じたエンパワメント」と題した発表を行った。またこの報告は、同学会の論文として掲載される予定である。

ポスター発表では、ひよっこクラブの取り組みについて「大阪における新規 HIV 陽性者グループ支援の取り組み～ひよっこクラブの 10 年を振り返る～」でプログラムの内容とこれまでの参加、反応を紹介し課題と今後に向けた提案を提示した。



会議期間中は、並行して一般公開 HIV /エイズ啓発特別イベント「Legends of AIDS Community – エイズ勃興期を駆け抜けた人々～」が大阪市公会堂で開催され、薬害エイズに始まった日本の HIV の歴史とその時代に関わった人々と出会う機会であった。この年の春に他界した当法人理事の榎本てる子も笑顔で展示されていた。

## 8) 広報

### 外国語による HIV 関連情報発信

2018 年度、外国語による HIV 関連情報の発信は滞日外国人が多く使用する Twitter を通じて情報提供を行った。その他、Facebook 等へも投稿することにより、情報が掲載されている当法人ホームページに誘導した。その結果、ホームページの 1 年間の訪問者数の平均が 6,922 (2017 年度の平均 4,350)、閲覧数が 10,677 Views(2017 年度 6,983)となり、訪問者数、閲覧数ともにアクセスが増加した。

また 2018 年 1 月からホームページに多言語のお問い合わせフォームを設置したことで、外国人がアクセスしやすい環境を構築した。その結果、海外からのお問い合わせ、または滞日外国人による日本国内での HIV 治療や HIV 検査のお問い合わせが 30 件あった。2018 年度はホームページから入った問い合わせへの対応と HIV 医療通訳の派遣件数が急増したため、ホームページの改訂作業と言語の追加を予定通りに進めることができなかった。今後はホームページに掲載する HIV 関連のコンテンツ(内容)や言語(ベトナム語等)を更に充実させていき、そして Twitter 等の SNS を通じてより広く広報活動をしていくことで、多くの人が情報を入手できるように続けていく計画である。

### ホームページ等による情報発信及びアクセス数

内容 月	閲覧数	訪問者	Twitter 投稿数/ インプレッション回数 <sup>i)</sup>	FB 投稿数	HP 投稿 数
2018/4	7,048	4,868	47 / 27,671	2	0
2018/5	8,445	5,954	46 / 15,682	5	2
2018/6	8,695	6,211	60 / 18,585	5	3
2018/7	9,991	5,532	52 / 17,688	2	2
2018/8	12,441	8,936	65 / 31,624	2	2
2018/9	8,655	5,435	36 / 18,234	4	2
2018/10	12,226	7,208	46 / 25,308	6	2
2018/11	10,277	7,278	52 / 37,184	5	3
2018/12	13,636	7,256	57 / 27,655	2	2
2019/1	12,168	7,996	62 / 43,964	4	3
2019/2 <sup>ii)</sup>	10,250	7,677	55 / 37,939	0	0
2019/3	9,290	6,707	60 / 37,010	1	1
2018 年度 平均	10,677 (6,983) <sup>iii)</sup>	6,922 (4,350)	53 / 28,212	3	1

注 i) インプレッションとはユーザーが Twitter でツイートを見た回数

ii) 2 月 19 日に異常なアクセス(スパムの疑い)があったため上記記録では閲覧数を 5,000、訪問者を 2,000 引いた数字を掲載している。

iii) 2017 年度平均

## 9) 理事会

### 9-1) 理事会

理事長 松浦基夫

副理事長 武田丈

理事 榎本てる子、中萩エルザ、白野倫徳、福村和美、横田恵子

監事 岸本昌利

2018年度理事会は、3回会議を開催して協議検討を行い、9-2の「CHARMのこれからを考える会」を開催した。以下は各理事会での主な協議内容である。

1) 2018年5月13日 13:00-14:30 参加 理事5名、監事1名、事務局1名

- ・新監事となった岸本昌利さんとの顔合わせ
- ・榎本てる子さんの死亡に伴う理事の補充についての検討
- ・2018年度のテーマを決定「CHARMの活動の可視化」組織の中でも見える化をすると同時に社会に対しても認知を上げていく。
- ・CHARMで活動をしている人に賛助員、一般会員になってもらうように働きかける。
- ・会員総会プログラム検討

2) 2018年12月9日 13:00-15:00 参加 理事5名、事務局1名

- ・会員制度の変更 一般会員→正会員とし、賛助員1年以上の人。会員継続意思について毎年問い合わせることを決議。2019年度から事務局に会員担当を設置することを承認。
- ・会計士導入による法人税、消費税支払いに関する検討と税務署への相談の結果報告と今年度の予定を了承。
- ・ひよっこクラブの役割について検討。西日本のエイズ拠点病院にニーズ調査を2019年度の前半で行い、後半にプログラム実施することを決定。
- ・CHARMのミッション(使命)を明確にする必要性。2月に会合を開催することを承認。

3) 2019年2月2日 15:00-17:00 参加 理事6名、プログラムスタッフ3名

- ・CHARMのミッション(使命)として日本に暮らす外国人の健康を支援する役割を前面に出していくことが必要であることが確認された。外国人の保健医療へのアクセスは20年前と比べて多くの自治体で改善されておらず新たな法制度もできていないことから、具体的事業を明確に打ち出すことの必要性を確認した。HIV陽性者支援を継続し、陽性者が心身の状態がどのような状態であっても安心して暮らすことができる環境作りを続けていくことには変わりはないことを確認した。

## 9-2) CHARMのこれからを考える会



昨年度に続いて2018年度も10月27日に理事、活動会員、職員が共に検討する機会を持った。CHARMがこれまで取り組んできた日本に暮らす外国人やHIVを持ちながら生きる人たちが安心できる社会の実現に向けてCHARMはどのような役割を担い、どのような支援を展開していくことができるのかを話し合う機会を重ねるために今回は発題を受けた後に小グループで討議を行った。

### ●保健医療の多言語支援に関わる人たちのグループ

医療通訳の範囲を感染症以外の広げる可能性については人材確保も含めて取り組む必要がある。

外国人の精神的健康に対する支援のニーズは高い。具体的な方法については今後要検討。

通訳派遣を本格的に展開していく場合の財源確保は課題である。

### ●HIV 陽性者当事者のグループ

現在行っている陽性者が集まれる場の継続を希望する。  
プログラムがあることによって情報と仲間を得て支ルことができている。

### ●支援者のグループ

CHARM はどんな団体なのかをわかりやすく表現するサブタイトルが必要。

日本には国際保健に関心を持っている医療者が多いことから国内でもできることがあることを伝えることが重要である。

定住外国人の健康を支援することを広げる。個別で継続的に支援が必要な感染症(TB, HIV 特に高齢者)、母子保健、ガン、メンタルヘルスなどの分野に CHARM の支援対象を広げることも検討する。

社会に知ってもらうために公開プログラム、フォーラムなどを開催する、マスコミを効果的に活用する など。

### 10) 会員総会

日時：2018年6月9日(土) 15:00-17:00

場所：在日大韓キリスト教会大阪北部教会

出席：会員 38名(本人 20名、委任 18名)

会員以外 8名 総計 46名

総会議事の後に「私らしい生き方 海外にルーツを持つ人の経験を聞く」パネルディスカッションを行った。スピーカーは、日本に暮らす外国籍の人たち。留学生としての生活をスタートした台湾出身男性、日本で子育てをした経験を持つ中国出身女性が自分の経験を共有して参加者と意見交換を行った。



### 11) 事務局

青木理恵子(事務局長、総務、SPICA、エイズ専門相談員派遣事業)

市橋恵子(陽性者個別支援、訪問同行支援「すけだち」)

ブーボンワラシ(通訳派遣事業、外国語によるエイズ電話相談事業、コミュニティ健康相談会、広報)

前田圭子(ひよっこクラブ、女性交流会)

藤井裕子(会計、会員管理)

岡田良信(月曜会)~7月

岸本尚子(母子保健パイロット事業、事業計画・評価) ~7月

### 12) 会員

会員数 96名(前年比 +33名)

〈内訳〉

賛助 A 28名

賛助 B 17名

一般 50名

法人 1名

### 13) 寄付者一覧(敬称略)

#### ○寄付 個人

荒巻富美、安藤敬子、市橋恵子、井上和宣、宇野健司、榎本てる子、岡部正子、織田幸子、上内鏡子、来住知美、黒木順子、小柳ゆみ子、重岡奈津子、白野倫徳、田島千里、張ジェイソン、豊島裕子、髯本郁廣島義夫、松浦基夫、松野周治、宮田りい、森田眞子、山口和子、山本一成、山本いづみ、金さんと仲間たち、てるちゃんを偲ぶ会東京有志、Akiko Kobayashi Gray、Ema Hiura、匿名、CHARM 事務所募金箱

#### ○寄付 団体

日本基督教団阿倍野教会、日本基督教団池田五月山教会、日本基督教団大正めぐみ教会、日本基督教団京都上賀茂教会、北陸 HIV 情報センター、一般社団法人プロッサム(つぼみ薬局)、虹フェスティバル実行委員会

#### ●虹フェスティバル 2018 2018 年 10 月 14 日 京都西部講堂

虹フェスティバルは榎本てる子さんの追悼チャリティーイベントです。虹フェスティバルの収益はバザールカフェや NPO 法人 CHARM 等、榎本てる子さんが生前携わり、尽力した団体に献金します。(虹フェスティバル公式ホームページより)

虹フェスティバル実行委員会から寄付金 120,000 円を活動のためにいただきました。コンサートに協力して下さったクリスチャンミュージシャンの方々、募金で協力して下さったの方々のお支えに心より感謝いたします。

<https://nijifes.wixsite.com/nijifes>



虹フェス 2018 の寄付を受け取る

